



相ノ木っ子だより

令和2年度
学校だより
2月号
上市町立相ノ木小学校



富山の冬を体感しながら



「スキー教室、楽しい」

一緒にリフトに乗りながら、4年生の男の子がわたしにそう話してくれました。また、昼食のカレーライスを食べながら、たくさんの子供たちがスキー教室の楽しさを話していました。初めての子、あまり慣れていない子には多少恐さや不安感を与えるかもしれませんが、子供たちにとって広大な自然の中で爽快感を味わえる学校行事がスキー教室です。昨年度、暖冬・雪不足のため行えず、3・4年生にとっては初めて、5・6年生は2シーズンぶりの相ノ木っ子のスキー教室でした。ましてや、今年度多くの学校行事が中止・縮小となっており、子供たちには大きな楽しみとわくわくする期待感を伴ったものでした。

当日は朝からずっと雨が降り続く悪天候でしたが、わたしたち以外の団体客はいないため、ゲレンデは貸し切り状態の様相を呈し、どこを見渡しても相ノ木っ子たちしかいません。周囲に気兼ねすることなく、とても広々と、そして伸び伸びと活動することができました。ですから、例年以上にインストラクターの先生方にはたいへん細やかな指導をしていただき、子供たちは嬉々としてスキーを学んでいました。とは言え、マスクをしっかりと着け、密に気を付けての技能実習であり、雨がウエアにしみ込んできてやや寒さや心地悪さを感じていたので、子供たちの気持ち的には少々抑え気味な感もありました。それでも、久しぶりのスキー教室を目いっぱい楽しんで満足感を得た子、初めてのスキー操作に悪戦苦闘しながらも上達が目覚ましかった子、スキーのおもしろさを味わい次年度への期待を高める子、それぞれの活動と 생각이あったように思います。

さて、地球温暖化が原因のようですが、近年はこの冬場もたいへん極端な天候になっています。昔は、静かにしんと雪が降り、シーズンを通して積み重なった雪がとんでもない高さになっていましたが、昨年は雪が皆無、今年は集中豪雪に見舞われて大渋滞を巻き起こしたり、食料品等の不足を生じたりするまでになりました。例年並みといった言葉が本当に使いにくくなってしまった近年の天候です。そんな気候の変動や社会の変化等いろいろな要因によって、わたしたちの暮らしや文化もずいぶん様変わりしてきました。雪国富山県でもスキー離れ、ウインタースポーツ離れが進み、スキーを購入する人はもちろん、休日にスキー場に出かける人は本当に少なくなりました。

わたしが子供のころは、スキーを担いで電車に乗って友達とスキー場へ行きましたし、勤めてからは、スキー場の駐車場がすぐ混んで麓まで車が長蛇の列となるためとても早起きして出発していました。また、たまには富山のスケートリンクへ行行ってスケートをする時もありました。それが、富山の冬の過ごし方・楽しみ方だったものです。せっかく富山の自然やよさを体感できる機会、富山でしか体験できないものを失するのはもったいないですし、小学生という多感な時期にこそ体験させてあげたいものです。ですから、これからも学校行事として継続していき、子供たちの学びや育ちに生かしていくべきですし、来年も相ノ木っ子たちが、スキー教室を満喫し、富山でのスキーを大好きになってほしいです。

温故知新

— 故きを温ねて新しきを知る —



論語出典のお馴染みの言葉です。こんなコロナ禍にある今だからこそ、ふるさと富山の文化や伝統、暮らしを見つめ直し、それらのよさを再確認したいものです。そして、自分たちの生活にしっかりと取り入れながら、新たな生き方を切り拓いていきましょう。

教育に関するアンケートの集計結果から

保護者の皆さんが回答された「教育に関するアンケート」の集計結果を分析・考察した文書を先日配布しました。アンケートへの回答や学校に対する意見等、ご協力ありがとうございました。ご覧いただいた通り、保護者の皆さんは、「子供」についての評価がやや低く、特に子供たちの「学習習慣」「読書」「言葉遣い」「挨拶」に課題意識をもっています。子供たちにしっかりと学習習慣、生活習慣が身に付くよう、教育活動の改善や指導の工夫を図りながら粘り強く支援していきたいと考えます。また「学校」「保護者」に関しては、ほぼ全ての項目において評価が高かったです。皆さんの学校に対する強い関心と支援・協力への思いが感じられる結果だと思えます。学校と保護者の連携を今後さらに深めていきたいものです。

先日の文書は保護者の回答のみの分析・考察ですが、この学校評価アンケートは、児童、教員、保護者それぞれに、「子供」「学校」「保護者」について回答してもらっています。そのため、それぞれの自己評価として読み取ることができますし、同じ項目においては三者の比較ができます。また、毎年続けているので、三者の評価・各項目について経年比較をすることもできます。

まず傾向として、三者とも「学校」「保護者」の評価は高く、「子供」に厳しい評価をしています。先述した子供たちの意識・力がまだまだ十分でないことを三者で共通認識しているということです。見方を変えたと、子供たちの自己評価が低いとも言えます。これは、子供たちが冷静に自分を評価できているのかもしれませんが、子供たちの自己肯定感の低さにつながっている気がします。もっと力を付けさせる手立てを講じるとともに、自分の成長を意識できる機会を積極的にもつようにすべきだと考えます。

また経年比較をしてみて、今年度の子供たちの評価が気になりました。ほとんどの項目で子供たちの評価は年々高まってきていたのですが、どの項目においても昨年度より随分評価が低下していました。特に、「学校へ来るのが楽しい」「家族や友達にやさしい」「相談できる先生がいる」「家族とよく話をする」といった心の面や人間関係における低下は、とてもショックな結果でした。学校として反省・改善すべき点をしっかりと探し、子供たちに働きかけていかなければならないと思う反面、「そうだろうな。やはり…」と納得する思いもあります。それは、1年間のコロナ禍という状況も要因にあると推測するからです。そして、子供たちの鬱積した思いがとてつもなく大きいものだということを今更ながらに痛感しています。

大人であるわたしたちは、コロナ禍という現実を受け止め、どのように対応していけばよいかを考えることができます。ですから、「この状況下であって…」という見方で学校教育を評価することができます。しかし子供たちは、状況や変化をそのまま心や体で感じ取ります。これまで当たり前に行っていた行事の中止や縮小はおもしろくありませんし、窮屈であり発散できない生活はつまらないです。そして、そのままの気持ちで学校教育を評価します。それが子供らしさであり、素直な学校評価と言えるでしょう。子供たちの方が、わたしたちよりコロナ禍に大きく影響されている証と言えます。いかに子供たちの心や思いを汲み取り、どのように充足感を満たしていけばよいか、これからの大きな課題だと思えます。

ドイツの哲学者ニーチェの言葉です。

人間の偉大さを言い表すための私の定式は運命愛である。

災害等の運命に翻弄される人間は小さな存在ですが、その運命を受け入れて人生を切り開いていく人間はとても偉大な存在でもあります。子供たちには、そんな人の強さを感じてほしいものです。

行事予定（2月中旬～3月中旬）

2月16日（火） 英語教室（1・4年）

19日（金） 英語教室（2・3年）

体育館ワックス塗布

22日（月） ノーメディア・ウィーク（～26日）

23日（火） 天皇誕生日



2月26日（金） 教室・特別教室ワックス塗布

下校 14:30

3月 1日（月） 卒業を祝う週間（～5日）

2日（火） 英語教室（1・4年）

5日（金） 卒業を祝う集会

9日（火） 英語教室（2・3年）

